

# 中島みゆき

今年4月から9月にかけてオンエアされ、連日高視聴率をマークした倉本聰脚本によるテレビドラマ「やすらぎの郷」主題歌「慕情」、挿入歌である「人生の素人(しろうと)」を含む全10曲を収録した、通算42枚目となるオリジナルアルバム「相聞」を11月22日にリリースした中島みゆき。限りない愛の唄を収録したアルバムと、現在開催中の「夜会工場」VOL.2について話を聞いた。

「夜会工場」というもの自体がまだ試行錯誤の最中なんすよ。固まってない。やれることをどんどん盛り込んで行こうと思ってます。だってまだ二回目だもん。

中島みゆきは、大阪で12月11日から始まる「夜会工場」VOL.2についてそう言った。

「『夜会工場』のポスターを御覧になって『夜会』の新作公演かと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。ダイジェスト版。仕事や家庭もあったり、私たちの年齢層になると誰かの世話をしたり色々ありますから泊りがけて東京まで行けないやね、という方に雰囲気だけでもお楽しみ頂こうというのが『夜会工場』ですね。」

中島みゆきが原作・脚本・作詞作曲・演出・主演という世界に例のない音楽舞台「夜会」が始まったのは1989年。去年の上演作「橋の下のアルカディア」は「VOL.19」を数えていた。2013年から始まった「夜会工場」は、これまでの上演作の名場面集を集めたダイジェスト版。オペラなどで使われる「ガラコンサート」である。今は東京でしか行われていない「夜会」を地方のファンにも知ってもらいたいという趣旨でスタートした。大阪公演は前回のシアター BRAVA! からフェスティバルホールへと舞台を移して行われる。

「大阪では『夜会』もやってたんですけど、ホールが消えちゃいましたからね(笑)。床板引っ剥がして穴掘って、みたいな場所は公のところでは少ないんですよ。「夜会工場」は工場を作って、その中に『夜会』の舞台を作るわけですから『夜会』よりも大きいホールにしないと。でも、『夜会』の



全場面を次から次へと変えながら見せて、と言う方は簡単ですけど、変えるの、誰よ(笑)。スタッフ泣きまくり。みんな血圧上がりっぱなしです(笑)。

いつものことではあるものの彼女の創作のエネルギーには驚かされるばかりだ。去年の年末には夜会VOL.19「橋の下のアルカディア」が上演された。最終日が終わ

った直後にレコーディングされたのが今年の話曲「慕情」と「人生の素人(しろうと)」だったのだそう。言うまでもなく倉本聰脚本のテレビドラマ「やすらぎの郷」の主題歌と挿入歌である。

「時間かかりましたね。「慕情」だけで一年経ってしまった。これは台本を読んでからじゃないとダメだなと。あんまり身勝手

に書かないで、とにかく台本を読んでからにしよう。覚えるまで読む。誰々のセリフ、と言われても自分でやれるくらいまで読んでから書く。曲を渡してしまったら、どの回のどの場面で使われるかはお任せということになりますから、誰が出ている場面で流れても良いように、となると、全部の内容を理解してないといけない。だって、台本が一回目から最終回まですでにあるんですから。それ全部読んでみ、髪の毛、抜けるから(笑)。

「夜会工場」VOL.2の初日は11月26日、東京・府中の森芸術劇場。その4日前の22日に「慕情」と「人生の素人(しろうと)」が収録された42枚目のオリジナルアルバム「相聞」が出る。全10曲。最後の曲が「慕情」である。全ての想いが「慕情」に繋がってゆくような愛おしさに満ちたアルバムは、彼女のこれまでのキャリアの中でも傑作として残ることは間違いないだろう。収録曲は全て去年の夜会VOL.19「橋の下のアルカディア」の前には出そろっていたというのも驚きだった。

「『慕情』を書き始める時には、この曲を中心にしたアルバムにはなるだろうから他にはどんな曲を持ってこようか考えてないよね。「夜会」の時には書き終わってない間に合いません(笑)。」

アルバムタイトルは「相聞」。万葉集の中の言葉だ。日本最古の和歌集である「万葉集」は「雑歌」「挽歌」「相聞歌」という三つの要素の歌で成り立っているという。「挽歌」は亡くなった人を悼む歌、「雑歌」は広くの日常生活や旅の歌、「相聞歌」はおもに男女の恋の歌である。

『「慕情」を中心にした「慕情」のためのアルバムです。でも、アルバムのタイトルも「慕情」じゃ紛らわしくて混乱するでし



よう。「慕情」を置き換えると「相聞」。日本には昔からこういう言葉があるじゃん。日本の古典には、なんだ、もうここで使われている、同じことを言われてる、みたいなことが結構あります。叶いませんね(笑)。

「『慕情』のためのアルバム——。一曲目から大きな流れがある。一曲目の「秘密の花園」は「辿り着けない人」に歌いかけられている。霧の中をさ迷うような始まりはアルバムのオープニングとしての予感に満ちている。いくつもの後悔や未練。それぞれの曲が男と女のような愛おしさを綴ってゆく。中でも彼女の全アルバムの中でもかつてないくらいの劇的な熱唱が聞けるのが後半の三曲「アリア-Air」「希(ねが)い」「慕情」だ。彼女にとって「歌とは何か」という大命題への究極の答えが激唱されている。「希(ねが)い」は「私のすべての未来を引き替えに」であり、「慕情」は「ただあなたに尽くしたい」だ。

「倉本マジックでしょう。倉本さんは絵空

## 中島みゆき 「夜会工場」VOL.2

2017.12月11日(月)・13日(水)・14日(木) フェスティバルホール

2018.1月9日(火)・11日(木)・12日(金) フェスティバルホール

【キャスト】  
中島みゆき / 植野葉子 / 香坂千晶 / 中村 中 / 石田 匠

■夜会工場事務局 <http://miyuki-yakai.jp/>

事では書かない人ですからね。自分の骨を削って書く。そういう人に嘘は書けない。嘘は書いてません。真剣で来る者には真剣で返さないのは失礼。歌させたのは倉本さんですね。」

アルバムの全曲がレコーディング前には曲順通りに揃っていたのだという。「夜会」の音楽監督でもある瀬尾一三が時には意外とも思えるアレンジを施してゆく。彼女がそれを知るのには歌入れの当日。つまり「初見」で歌う。

「いつもそうですよ。瀬尾さんもそれが楽しみみたいで。「聴いて驚けよ」という(笑)。こっちが茫然としてる時に「どないや」みたいな顔してます(笑)。今回の「夜会工場」も曲数が多いんです。瀬尾さんが言うたんです。「曲数増やそう、一杯やろう」って。「言うたな」と思って増やしたら「何でこんなに一杯あるの」。言うたでしょ、自分でって(笑)。」

「夜会工場」VOL.2の見どころの一つが夜会VOL.18「橋の下のアルカディア」で共演した中村 中と石田匠も一緒ということだろう。二人が参加する前の「夜会」の曲にも彼らが加わる。更に瀬尾一三もずっとステージに立つという。彼女は「サービステんこ盛り、すごくお得だと思います」と楽しそうに笑った。

## 瀬尾一三 作品集『時代を創った名曲たち』リリース

中島みゆきのコンサート、『夜会』『夜会工場』の音楽プロデュースを務めていることで知られる瀬尾一三。編曲家&音楽プロデューサーとして、時代を代表するヒット曲を創ってきた彼の生誕70周年を記念して、11月22日、『時代を創った名曲たち～瀬尾一三作品集 SUPER digest～』がリリースされた。名曲のほとんどはアーティストの作詞・作曲だけではなく、編曲(アレンジ)があって完成する。日本のポップ

ス、ロックシーンの黎明期から現在まで、燦然と輝くアーティストたちの作品をアレンジ(編曲)・プロデュースしてきた彼の偉業が2枚のディスクに収められている。落陽/よしだたくろう、『いちご白書』をもう一度/バンバン、オリビアを聴きながら/杏里、順子/長渕剛、壊れかけのRadio/徳永英明、糸/中島みゆき、泣いてもいいんだよ/ももクロクローバーZほか、全26曲収録。

